

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター サンキッズ岩国（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和7年12月1日		～ 令和8年1月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	60名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	令和7年12月1日		～ 令和8年1月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○訪問先施設評価実施期間	～		
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援センターは通常の児童発達支援事業所よりも人員配置が手厚いよう義務づけられていることから、複数の保育士、児童指導員を配置することが出来る。又、児童発達支援センターの機能的役割として、インクルージョン推進、スーパービジョン、家族支援機能等、専門性の取得が求められているため質の高いスタッフを配置できる。	定員20名であることから、少人数各4クラス編成を軸に療育支援を実践している。個別支援を基盤として、少人数での集団療育にも赴きをおいている。保育園や幼稚園へスムーズな移行を目指し、卒後に向けた就学も視野に入れた支援を実践している。	科学的根拠に基づく療育支援の実践。コンサルタントから指導、助言を仰ぎ、専門的な療育に磨きをかける。
2			
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人数が多いこと、集団療育の場面での接触も0とは言えない。遊びのルール、方法、困った時の対応など、コミュニケーション支援を図る上で、トラブルも生じることがある。	情報周知、情報理解、実践と行動	職員のコミュニケーション時間や機会を意図的に作り、増やす。チーム全体が質の向上に向けた動機を高める。
2			
3			